

津田塾大学 数学・計算機科学研究所報

17

第 9 回

数学史シンポジウム

(1998)

1999

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

まえがき

津田塾大学 数学・計算機科学研究所主催の「数学史シンポジウム」も回を重ね、第9回が1998年10月24日、25日の両日、津田塾大学5号館で開催された。この研究所報17号はその報告である。

講演をし、原稿を書いて下さった方々に厚く御礼申し上げます。また、発行が遅くなったことをおわびいたします。

1999年 8月24日

津田塾大学 数学・計算機科学研究所

杉浦 光夫

笠原 乾吉

目次

斎藤 憲	ユークリッド以前の比例論 —複数の比例論は本当に存在したのか—	1
佐藤 賢一	「大成算経」巻十一所蔵の「帯不尽」なる図形について	6
丹羽 敏雄	ゲーテ＝シュタイナー的科学と数理科学	47
中根 美知代	Hamilton-Jacobi 理論の新展開 Poincaré による「Jacobi の定理」の解釈	60
吉沢 尚明	Radon 変換の歴史	76
飛田 武幸	古典変分から確率場の変分へ Euler, Hadamard, Lévy の確率場へのインパクト	84
高瀬 正仁	数学者「岡 潔」の評伝の構想 評伝「岡 潔」のための数学ノートⅡ（未定稿）	89
片山 孝次	多重ガンマ関数とその周辺	130
杉浦 光夫	リー群の極大コンパクト部分群の共軛性	142